



新型コロナとRSVの同時流行の様相！

新型コロナの第7波の拡大の勢いが止まりません。特に第7波では小児の感染者が目立ち、当院の発熱外来でも1日3~4人の新型コロナの新規陽性者がでています。そして気になるのが市内の保育所などで乳幼児のRSV感染症が爆発的に流行していることです。昨年の夏に流行したときにRSVにかかった子どもが、今回もたくさんかかっています。発症年齢は3歳以下に集中しており、4歳以上は少なくなっています。

新型コロナとRSV感染症は同じ呼吸器の感染症で、症状から完全に区別することはできませんが、いくつかの鑑別点をあげてみます。

- ①**年齢**:RSV感染症は何度もかかりますが、それでも**3歳以下のお子さんが圧倒的に多く、新型コロナは学童期のお子さんに多い傾向**があります。
- ②**症状**:新型コロナは発熱、倦怠感で発症することが多く、鼻水、咳の症状はあまり目立ちません。それに対してRSV感染症は鼻水、咳と同時にあるいはやや遅れて発熱がでてくることが多いようです。
- ③**感染場所**:小児の新型コロナは感染経路不明のこともありますが、**家族内感染が圧倒的に多い**と思います。それに対してRSV感染症は**保育所などの集団生活の場で感染することが多い**ので、通っている保育所で流行していないかどうか確認しておくことが大切です。

小児科外来を受診する際の参考にしてください。

コロナ陽性者の同居家族へのみなし陽性導入

新型コロナの急速な感染拡大により、地域の外来診療がひっ迫していることから、苦肉の策として**7月28日から県内に導入**されました。

”新型コロナ陽性の患者さんがいる同居家族や同居人などの濃厚接触者については、発熱や咳などの症状があれば、検査を行わなくても、医師の判断で臨床症状のみで新型コロナと診断できる”というものです。

同居家族に陽性者がいる→臨床症状のみでコロナ患者と診断可能→疑似症患者として保健所に発生届を提出という流れになります。

また、この制度は、同居家族以外にも施設でクラスターが発生し陽性者との接触があった場合などにも適応されます。



7月の感染症情報

7月に入りRSV感染症が急増しました。新型コロナの新規感染者は日増しに増えています。その他、アデノウイルス感染症、溶連菌感染症の発生がありました。6月まで流行していた感染性胃腸炎はほぼ終息した感があります。



7月の利用状況

7月の利用延べ人数は41名で、1日の平均利用人数は、3.1人でした。年齢別では1歳児が21人で最も多く、次いで2歳児の8人でした。疾患別では急性上気道炎が16人で最も多く、次いでRSV感染症9人、アデノウイルス感染症6人の順でした。7月19日から29日まで職員が新型コロナに感染したため臨時休園をして、利用者の皆様にはご迷惑をおかけしました。入室時にお預かりするお子さんには全員新型コロナの抗原検査を実施させていただいておりましたが、さらなる感染対策を充実させて病児保育の運営に努力してまいります。